

腹腔内に形成され腫瘍組織の脊柱管内直接浸潤により 後躯麻痺を呈した牛白血病の1例

松山雄喜¹⁾ 神尾恭平¹⁾ 村上智亮¹⁾ 下田 崇²⁾ 古林与志安¹⁾
古岡秀文¹⁾ 松本高太郎¹⁾ 猪熊 壽^{1)†}

- 1) 帯広畜産大学畜産学部臨床獣医学研究部門予防獣医療学分野 (〒080h8555 帯広市稲田町西2線11)
- 2) 十勝農業共済組合 (〒089h1182 帯広市川西町基線59番地28)

(2009年1月21日受付・2009年4月13日受理)

要 約

5歳6カ月齢ホルスタイン種乳牛が、後躯麻痺による起立不能を呈した。浅頸リンパ節の腫大と直腸検査による腫瘍の触知から牛白血病を疑ったが、血液検査とリンパ節の針吸引生検では確定診断できなかった。剖検では、60×40×20cm大の多結節性腫瘍が背側の腹腔壁に接して存在していた。腫瘍組織は腸腰筋に浸潤し、一部は第5および第6腰椎椎間孔より脊柱管内に連続的に波及し、脊髄および脊髄神経根を圧迫していた。腫瘍はCD3陽性のT細胞性リンパ腫で、牛白血病ウイルス抗体陰性であったため、散発型牛白血病と診断された。

——キーワード：牛白血病，脊髄浸潤，後躯麻痺。

----- 日獣会誌 62, 713～716 (2009)

† 連絡責任者：猪熊 壽 (帯広畜産大学畜産学部臨床獣医学研究部門予防獣医療学分野)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎・FAX 0155-49-5370 E-mail : inokuma@obihiro.ac.jp